

## 令和3年度 第1回伊勢崎市総合教育会議 議事録

会議の名称	令和3年度 第1回総合教育会議
開催日時	令和3年4月22日（木）午前10時30分～午前11時20分
開催場所	伊勢崎市役所東館5階第4会議室
出席者氏名	<p><b>【委員】</b>          臂泰雄市長、三好賢治教育長、稲庭美智子教育長職務代理者、高山英記教育委員、野口裕孝教育委員</p> <p><b>【事務局】</b>          （企画部） 細井企画部長、新井企画部副部長、高柳企画調整課長、町田係長、久保田主査、北爪主査          （教育部） 小島教育部長、井野教育部副部長、三木教育部副部長、齋藤教育部総務課長、猪野学校教育課長、小林係長、村井係長、久保田係長、神村主任</p>
傍聴人数	5人
会議の議題	協議事項（1）コロナ禍における教育現場の取組について
会議資料の内容	<b>【資料1】</b> コロナ禍における教育現場の現状
会議における議事の経過及び発言の要旨	<p><b>1 開会〔企画部長〕</b>          ただいまから、令和3年度第1回伊勢崎市総合教育会議を開催します。</p> <p><b>2 自己紹介</b></p> <p><b>3 市長あいさつ</b>          おはようございます。          本日は、第1回伊勢崎市総合教育会議ということで、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>私は、今年の1月の市長選挙で新たに市長を仰せつかりました。今まで、市議会議員、県議会議員として活動する中で、教育について様々なことを学ばせていただきました。私の教育に対する考えですが、まず、学校教育については、学校における教職員の皆様の専門性、また、高い職業人としての倫理観を大切にしながら、お任せしていきたいと考えています。学校教育に繋げる部分の幼児教育、保育を行政としてしっかりお手伝いをして、そして、学校教育が終わった後の子どもたちに対して、職業などの環境を整備していくという必要があると考えています。また、学校教育における施設整備など、お手伝いできる場所があればしっかりと行う必要があると考えていますので、教育委員の皆様にも、ぜひ学校教育、教職員の皆様のサポート役として行っていただければありがたいと思っています。</p> <p>少し私事の話をしていただきたいと思います。          このように考えた大きな要因は、私が小学校、中学校、高校、そして、大</p>

学で多くの先生にお会いし、様々な教育を受けたことが大きいと思います。

私の高校時代は、大学が荒れていて大変な状況の中で高校時代を送りました。自分自身、時代の子でありますので、社会の動きの中で自分自身もしっかりとした学校教育の中で勉強したというよりも、学校をサボり、しかし、その頃は本を読むのが好きだったものですから、一生のうち何万冊読めるかという思いの中で本を読んだ覚えがあります。一日一冊読もうと思っていましたが、高校時代はなかなかそこまで出来ませんでした。そのような生活を送っていたものですから、全く受験にふさわしくないような生徒でありまして、よく卒業をさせていただいたなと思います。

しかし、その時に私は、成績は良くなくせに医学部を目指したいという思いがありチャレンジもしました。1年目は学校教育の基本がなければならぬので、いわゆる宅浪という自宅で浪人生活を行い、2年目は行きたい学校があったものですから、仙台で1年間予備校生活をしましたが挫折しました。これ以上は駄目だと思い、実家の鉄工所を手伝い、朝から晩までプレス機を動かしていました。また、近所の中学生に勉強を教えたりしましたが、今のままでは駄目だと感じていました。私は兄弟が5人もおり、会社を継ぐ者もいますし、私は私なりの生き方をしなければならないという中で、やはり学校にいかなければいけない、大学に行こうと思いました。

その時には、また医学部というわけにはいきませんので、何のために医学を学びたいのかと考へまして、私自身、人間が好きという思いがあり、それを科学的に考えるというところで、生物学を学ぶことを決めました。

その時に、私を一番大きく支えてくれた言葉は、高校時代の先生の「人間は何を成したかで価値が決まるのではない。何をするためにどれだけ努力をして、そこに向かってどれだけ進めたかということが大事なんだ」という言葉でした。教えていただいたことが、常に今でも脳裏にあり、これが一つの私の人生を支える大きな言葉になっています。その時代時代に合わせて、様々な考え方をする方がいますが、実績が全てではなく、何かを成し遂げようと思ったか、その目標に向かってどれだけ自分が動いたか、歩いたか、それなりの努力をしたか、このことで人間の評価は決まると。この思いというのは、例えば障害のある方が、健常者と一緒に100メートルを走った時に、負けるのは決まっていると思います。しかし、自分の持っている能力の中でどれだけ進み方ができたかというのは、健常者が自分の能力をどれだけ発揮したかとの比較で決めれば、障害がある方はある方なりの評価が出来ると思います。そのような機会をしっかりと教育の中で成し遂げていくということが、私みたいな人間を、また次のステップに向かわせてくれる大きな力になってくるのではないかと思います。教職員の皆様が子ども1人1人の個性を認めながら、その中で力を発揮できるような環境を整えていただければと思います。このようなことをぜひ学校教育の中で成し遂げていただければありがたいと思います。

私は共生ということを市民の皆様へ訴えてきましたが、それぞれの世代がそれぞれの世代で持っている力をしっかりと発揮できる社会であり、そしてまた、外国籍の方、障害のある方、何よりも女性の皆様が力を発揮できる、そのような社会にしていかなければならないと思っております。

そのために、教育界にいる皆様、そして教育委員の皆様にはこれからもそれぞれのお立場で、そして、それぞれのお考えでご指導いただければありがたいと思っております。学校教育や生涯学習を含め、社会教育の部分もしっかり行っていかなければなりませんし、今年は図書館100周年ということで、大きな節目の年でもあります。コロナ禍の下でなかなか実現できないこともあります。このような様々な機会を捉え、市民の皆様へ生涯学習、そして、学校教育にご理解いただけるような1年にしていければと思いますので、よろしく願いいたします。

とりとめのない話になりましたが、本日は第1回の総合教育会議ということでありますので、少し私の身の上話をさせていただきました。大変恐縮で

すが、1年間よろしく願いいたします。

#### 4 教育長あいさつ

今、市長には、市長の教育感の根っこにあたる部分からお話をいただきまして、胸にすんと落ちるものがございました。今のお話は私たち教育行政に取り組む者の思いと相当一致するところがございまして、私たちの取組への大きなエールと受け止めさせていただきました。本当にありがとうございます。

また、日頃から市長には教育への関心、ご理解をいただき、また、関係部局、関係課の皆様にも色々なご支援をいただいておりますことに、この場をお借りして感謝を申し上げます。

改めまして、私のご挨拶としては、大人も子どもも、夢や希望、生きがいを持って学び続けるということが出来たならば、それはその人の人生を豊かにするものでありますし、また、学ぶ気持ちのある人が集うことで、そして、学び合うことで、そこに賑わいが生まれ、そこで学んだことが地域社会に還元されることによって、地域の安定と発展に寄与するものと思っております。教育行政は、そのための教育条件を整備したり、あるいは、市民、子どもたちが学ぶきっかけ作りをする、仕掛けを作っていく仕事だと考えております。

またさらに、先ほど市長から共生というお話がありましたが、教育がこれまで果たしてきた社会のセーフティネットとしての役割というものが、今日ますます重要になってきております。様々な困難を抱えた子ども達、複雑な家庭事情であったり、経済的な困窮を抱えていたり、あるいは、障害を抱えている、または、日本語が不自由であるといった子ども達のそれぞれの可能性を伸ばしていける。誰一人取り残さない教育を実現していくということが教育行政の使命だと考えているところです。今後とも、関係部局、関係課と連携をさせていただきながら、このようなことにしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

終わりに、本日は協議の中で、コロナ禍における教育現場の取組についてということを取り上げていただきました。このコロナ禍の中で学校がどのようにこの問題に向き合ってきたのか、先生達、子ども達の様子などを報告させていただきまして、大所高所からのご意見をいただくとともに、この後のコロナ対策、または、アフターコロナということで、どのように教育を進めていくかということにご意見を賜ればありがたいと思っております。今日はどうぞよろしく願いいたします。

#### 5 署名委員の指名〔市長〕

まず、委員の出欠状況ですが、本日は山洞委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

それでは、次第に従い、会議を進めさせていただきます。

次第5「署名委員の指名」についてですが、議事録作成の際に、議長及び委員1人に、その内容を確認いただいたことへの署名をいただくこととなっております。今回の議事録への署名は、三好教育長にお願いしたいと思いません。

#### 6 協議事項

##### (1) コロナ禍における教育現場の取組について〔学校教育課長〕

「コロナ禍における教育現場の取組について」、ご説明申し上げます。コロナ禍において、これまで市長部局の皆様にも大変お世話になりながら、教育現場では様々な取組を行ってまいりました。

本日は、大きく6点、「予防及び感染拡大防止対策について」「臨時休業について」「児童生徒の心身のケアについて」「差別や誹謗中傷の防止について」「学習について」「行事について」報告させていただきます。

ます。

まず1点目、「予防及び感染拡大防止対策について」です。

新型コロナウイルス感染症の予防対策として、各学校では特に以下の3点を継続徹底しております。

一つ目として、「感染源を断つこと」です。具体的には、各家庭において毎朝検温や健康観察することを依頼し、発熱など風邪症状がある場合には登校を控えてもらっています。また、同居の家族などが濃厚接触者に特定された場合やPCR検査を受けることになった場合も、校内における感染拡大を防ぐために、検査結果が出るまでの間は登校を控えてもらうよう依頼しています。これは、「自分が感染しているかもしれないという前提のもと、これ以上感染を拡大させない」ための行動であり、各家庭とも、非常に協力的に対応してくれています。

二つ目として「感染経路を断つこと」です。具体的には、外から教室に入るときや、咳・くしゃみをしたとき、給食の前後、清掃の後、トイレの後、共有のものを触る前後などに手指の消毒や手洗いを一層徹底しております。また、適切なマスクの着用について指導しております。令和2年度の夏には、マスクをしていることで熱中症も心配されました。登下校など、周りとの距離が十分確保できるような場面では、飛沫を防ぎながら、適切にマスクの着脱をするように指導しております。また、給食時には、マスクを外すこととなりますが、児童生徒は飛沫を防止するため、前を向き、話をせず、給食を食べているような現状もあります。

教職員は、毎日学校施設及び用具等の消毒を継続するとともに、清掃により清潔な空間を保つようにしております。各家庭においても「十分な睡眠」「適度な運動」及び「バランスのとれた食事」を心掛けるよう指導し、健康な生活により児童生徒の免疫力を高めていけるよう指導しております。

コロナ禍における生活において一番大切にしたいことは、児童生徒の自己管理能力を高めることです。児童生徒が自分の内面に目を向け、自分の健康状態と向き合い、内面の些細な変化も感じ取れるような力をつけていくことが必要であると考えております。

三つ目としては「集団感染のリスクを減らすこと」です。具体的には、教室などの活動場所を適切に換気すること、ソーシャルディスタンスを確保することを徹底し、「密閉」「密集」「密接」のいわゆる「三密」を回避することを徹底しております。

新型コロナウイルス感染症対策については、家庭の理解、協力が不可欠です。各家庭に対しては、適時的に教育委員会から通知し、家庭生活での注意点などの周知を図っています。また、本市では、外国籍家庭が多いことから、家庭への通知については、外国語に翻訳して、もれなく情報が伝わるようにしております。

市教育委員会から各学校に対しては、「学校における新型コロナウイルス感染症発生時の対応について」をまとめ、各学校に周知しております。主に、児童生徒が新型コロナウイルス感染症に感染した場合の出席停止などの扱い、学級閉鎖や臨時休業の判断などについて記載し、学校関係者の中で陽性が確認された場合に迅速に対応できるよう、指示しております。

令和2年度において、学校関係者からも陽性者が出ておりますが、校内でのクラスターは発生しておりません。これもひとえに各家庭の協力と各学校の感染予防および感染拡大防止対策の成果であると考えております。

次に、2点目「臨時休業について」です。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月4日から臨時休業といたしました。休業中には子どもに寄り添った対応を行い、子

どもを孤立させないため、全ての子どもに対して、個別に電話連絡をしたり、学校ホームページを活用して、学校通信や応援メッセージを伝えました。また、家庭での過ごし方についてアドバイスをすることにより、不安や心配の軽減に努めました。また、ホームページ上で課題を示したり、各家庭に課題をポストインしたり郵送したりして、学習面でもサポートしました。

次に、3点目「児童生徒の心身のケアについて」です。

学校再開後、学校で学ぶことの良さを改めて実感したためでしょうか、子ども達は、臨時休業の影響を感じさせないくらい、元気に過ごしています。しかし、新しい生活様式での学校生活により、生活面や学習面での不安やストレスを抱えているはずであると考え、教職員は児童生徒一人一人の心に寄り添った指導を心がけました。また、スクールカウンセラーや相談員の活用、学校外の相談窓口の周知、保護者との連携など、きめ細かな指導を行い、不安やストレスの軽減に努めてきました。

このような取組により、精神的な健康が保持できるようサポートするとともに、身体的な健康が保持できるよう指導しています。各家庭にも協力していただき、これまでであれば、登校していたような、微熱やのどの痛みなどの体調不良でも、感染拡大防止のため登校を控え、通院したりする児童生徒が多くなっています。このことは、保護者が、自分の子どもの健康を第一に考えているとともに、友達の健康も大切にしていることや、感染症を拡大させないための考えが広く共有されているからだと思います。また、感染者及び濃厚接触者に関して、多くの情報が保護者から学校に速やかに寄せられており、これは保護者と学校の間に厚い信頼関係が構築されているからだと考えています。

新型コロナウイルス感染症に対しては、感染しないための行動や拡大させないための新しい生活様式についての正しい情報や知識を児童生徒の発達段階に応じて適切に指導しているため、学校内で感染が拡大しているような状況はありません。

次に、4点目「差別や誹謗中傷の防止について」です。

コロナ禍における適切な言動がとれるよう、特別の教科道徳の授業において公正、公平、社会正義について考えさせたり、学級活動の授業において新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新しい生活様式や、感染症についての正しい知識を伝えたりしているため、差別や偏見が生じるような事案は発生していません。

次に、5点目「学習について」です。

学習に関しまして、令和2年度は、夏休みや冬休みの一部などを授業日として、授業時数を確保しました。また、教育課程を見直すとともに、学習内容を重点化し、学習の量から質への転換を図りました。具体的には、算数での計算の仕方や図形の定義など、次学年の学習に影響する、基礎的、基本的な知識及び技能の習得に関する事項を、重点的に指導しました。さらに、計算の仕組みや図形の性質が成り立つ理由など、教科の本質に関わる思考力、判断力、表現力の育成に関する事項も、重点的に指導しました。このように、児童生徒一人一人の学力の定着状況を、丁寧に確認しながら指導を進めるとともに、一人一人の学習内容の定着に向けた、指導方法の工夫、改善を通して、児童生徒の学びの保障に努めています。令和2年度は授業日数が減少しましたが、各学校が授業時数の確保に努め、指導方法などを工夫し、計画していた学習内容はすべて指導することができました。

次に、6点目「行事について」です。

令和2年度に、感染予防及び感染症拡大防止の観点から、国や県の基準に基づき、市教育委員会が中止の判断をした行事もあります。市教育委員会でも中止とした主な行事は、小学校の臨海学校、小中学校の合同音楽会、修学旅行などです。その他の学校行事については、国や県の動

向、地域の感染状況を踏まえ、学校長が中止や延期、縮小実施を判断し、決定しました。学校行事を実施する場合は、通常の教育活動を行う場合と同様に、感染予防及び感染症拡大防止対策を徹底するよう指示しています。

また、小学校では、運動会を中止した学校が1校、縮小して実施した学校が22校でした。中学校では、体育大会は全11校が縮小しての実施、文化祭などは1校が中止、縮小して実施した学校が10校ありました。また、小中学校及び四ツ葉学園中等教育学校において、中止した修学旅行の代替となる校外学習を行った学校は28校でありました。これからも、国や県の方針、ガイドラインを踏まえ、新しい生活様式に対応した形で、より効果的な教育活動を実施いたします。

全小中学校では令和2年度末の卒業式を無事挙行できました。感染防止対策を徹底するため、規模や参加人数の縮小化、時間の短縮化などを行い挙行いたしました。各校では、卒業生の旅立ちを祝いたいという思いを一つにして、在校生・教職員が一致団結して、素晴らしい卒業式が挙行できたとの報告を受けています。また、令和3年度の入学式・始業式につきましても、去る4月7日に全小中学校において、予定通り無事に実施され、感染予防及び感染拡大防止対策を継続しながら令和3年度がスタートしております。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症への対策である新しい生活様式を踏まえた教育活動を構築していくことをとおして、これまでの教育活動の意味や意義、価値などを根本から考え直す1年となりました。これまで当たり前のように実施できていたことを、1から検討し直し、そして、再構築することは大きな労力が必要でありました。しかし、子供一人一人が安全・安心に学ぶことができるよう、市教育委員会と学校・園が、保護者や地域の方々と力を合わせて、この難局を乗り切っております。今後も、国・県、そして市長部局などと協力しながら、コロナ禍においても、より良い教育活動の実施に努めてまいります。

#### [質問・意見等]

(稲庭委員)

ただ今コロナ禍における教育現場の現状についてご説明いただきましたが、ただでさえ先生方は業務量が多く働き方改革を行っている中、コロナの感染防止対策や授業の確保、また学びをいかに提供するかにご尽力いただいたことに改めて感謝いたします。コロナ禍で昨年の春に休校になったことで、改めて学校が子ども達にとっても、また親にとっても子どもが育つ場としてなくてはならない大切な役割を担っていることを実感された方も多いかと思えます。

コロナ禍の教育で今までどおりにできないことがたくさんあったと思いますが、これだけは守っていききたいとか、形を変えてもこれは必要だと思うことがあれば他の委員の皆様にもお考えをお聞きしたいと思えます。

(教育長)

先ほどの担当課からの説明でもありましたが、やはり子ども達の学習の内容を量から質へ転換をして、これだけとはにかく身につけさせたいということ、を厳選したうえで指導していくということ、を、如何なる状態でも行っていくということ、取り組みました。

もう一つは、コロナ禍でソーシャルディスタンスにより、どうしても距離を取らざるを得なくなる中で、学校教育において学ぶ大きな柱として、子どもの社会性の成長を遅らせるわけにはいかないということで、写真の通り学校の行事も可能な限り子ども達がお互いに協力をして一つのものを作り上げるという経験をさせるということを取り組んだこと、基礎的な学習と社会性

の育成をなんとかしてつないだということかと思います。

**(野口委員)**

私の孫が高校3年生と小学4年生にしまして、学校の様子がよく分かるのですが、学校の先生達は非常に気を使ってよくやってくださっているというのが実感です。孫達を見ていると子ども達は意外に元気で、普通に学校生活を送っており、行事についてもおじいちゃん、おばあちゃんは見学をご遠慮くださいという連絡が来ますが、普通に行事もある程度こなせていて、親が撮ってきたビデオをちょっと見せてもらい、それなりに楽しめていますし、結構うまくいっているなというのが実感です。

ただし心配するのが、高校3年生の孫と話をする、高校に入学した1年生の後半からコロナで、去年1年間コロナ騒ぎで結構バタバタしていて、3年生になった今、またコロナがこんなに流行ってくると俺の3年間結構コロナで終わっちゃうのかなというような実感があるんだと思います。高校の先生もそれなりに行事などは行ってくれたり、部活もできる範囲で行ってくれたりしているのですが、就学期間の短い中学3年生も今の3年生は同じような印象があるのかなと心配しています。幼稚園についても3歳保育からやれば3年間ですので、去年はいろいろなことが手探り状態で仕方がなかったというのは分かるのですが、去年を経験して今年はこれがスタンダードだというようなことで行事など行っていけると良いと思います。

もう一つ面白いなと思ったのが4年生の孫が「じいちゃん、ばあちゃん、僕学校で一生懸命手を洗ったり、こういうことやったりしているのは、僕たちがコロナにならないこととおじいちゃん、おばあちゃんを守るんだよ」と話をしていました。「それはすごいね、頑張ってるね」と言ったのですが、そのような面もやはり学校の先生達は工夫して色々教えてくれていると感じました。

**(市長)**

今年の行事の部分を含めて、できるものはしっかり行っていくところかと思いますが、どうでしょうか。

**(教育長)**

去年の経験を踏まえて、ご指摘の通り今年は可能な限り、通常の教育活動に戻せるものは戻していこうという努力はしております。ただどうしても対外的なものについては、まだまだ十分な配慮が必要だということで、今も臨海学校や修学旅行については、縮小なり中止の方向を検討せざるを得ないところで子ども達に申し訳ないと思いつつ、それに代わる日帰り旅行や学校での子ども達の交流活動のようなことを各学校とも工夫をしていくところではあります。

**(野口委員)**

行事が中止になるのも、子ども達にしてみると、僕達は中止になった代わりの行事で我慢していることで周りの人達を守っているという意識が、ただコロナだから中止ということと違い、子どもなりに頑張る意味があるのだと思います。そのようなところをきちんと教えていくとコロナだから中止、縮小だけど、頑張ることでお互いを守っているんだという意識を子ども達に持たせていくと、ただ中止とは違う意味があるのだと、そのようなことも先生達は工夫をしてよく教えてくださっている、いろいろな学校にも行き届くといいと思います。

**(教育長)**

今のご意見、おそらくそのような取り組みをしている、つまり自分を守るだけでなく、家族や社会を守っていると、そのような学び方をいろいろと

ここで学校関係者にも紹介させていただきたいと思います。先ほどの小学4年生のお孫さんのお話、とても心温まる話だなと思いました。

**(高山委員)**

コロナ禍というところで、先ほど関係部署の方からご説明いただいたのですが、基本的に伊勢崎市に関しては本当によく対応しているという印象を受けました。しかし、少し気になったのが、外国人の保護者の方には翻訳して周知をしているとのことでしたが、要するに関係者に向けての周知、アナウンスはしているけれども、市民に対するアナウンスが欠けているかなと感じました。市民の方にも、学校では安心安全が担保されているというところを分かっていたほうがより良いのかなという気がしました。

**(市長)**

それは教育部局だけではなくて市長部局で広報も含め、学校の取り組みなどをしっかり紹介するのはやはり大事なことだと思っております。

**(教育長)**

ご指摘のとおり、学校の周知というのは保護者と区長さんをはじめとする地域の関係者というように、まずは学校区内への周知ということには努力はしてきているところですが、伊勢崎市の教育全体がこのような取り組みをしているという大枠でもって市民の方々にもご理解いただくという、子ども達がこんなに頑張っているのだから、自分達も頑張ろうという気持ちにつながるような周知ができれば良いと思います。

**(市長)**

いろいろと連携をしていかなければいけないと感じました。それぞれの学校の特徴のある取り組みもあるのですが、伊勢崎市全体としてこのような考え方で子ども達はこういう取組をしています、協力してもらっていますというのは、このような情報が全く届かない人達もいるわけですから、少し検討させていただきたいと思います。

**(稲庭委員)**

先ほど教育長がおっしゃられた行事について、コロナ禍が収まればなるべく通常通りに戻されるというお話でしたが、例えば高校などですと、文化祭と体育祭を1年ごとに交互にするとか、合唱コンクールは3年に1度しかないとかそれぞれの学校で独自に決め、そのようになっているのだと思います。小中学校と高校は別だとは思いますが、高校は学ぶことが主体であるので、あまり行事にばかり翻弄されて先生達もそのことばかり、また生徒達も行事ばかりに力を注いでいるとなかなか学ぶ時間などが確保できないので、そのようにしている高校もたくさんあるのだと思うのです。

例えば小学校の運動会で組み立て体操が最初は5段だったのが年を追うごとに体育の先生の方が入って6段、7段、8段とすごく高くなり、危険だから今はやめようとなっていると思うのですが、もっともっとというのは、子ども自身もあると思いますが、先生達も去年よりもより良いものを、保護者も昨年よりももっと素晴らしいものを見たいという、そのような意欲が行き過ぎて結局先生達の業務量を増やしたり、また子ども達にとっても負担の掛かり過ぎる行事内容にならないようにどこかで歯止めといいますか、運動会なら運動会をやる意味を、せっかくコロナで一度初心に返る機会を得たのだから、もう一度、一つ一つの行事も見直すことも、先ほども見直されたということで仰っていましたが、学校ごとに見直しを、もう一度立ち返りまた振り返るなり、そのような機会を得たと思って取組んでいただくとありがたいと思います。

**(教育長)**

大変ありがたいご意見を聞かせていただきました。実は私共もそこを考えているところで、先ほど可能な限り正常な教育課程と申しましたのは、昨年度は当然やるべきこともできなかったというところがあったものですから、そのような意味で正常に戻すという意味です。現にいろいろな大きな儀式的な行事などもどんどん業務量が膨らんできていましたし、今の運動会もそうですけれどもそれによって子ども達、そして教職員の負担が増して本来大事にするべき教育活動に支障をきたしているということもありました。

しかし、今回コロナによってそれらを一気に見直す機会になったものですから、アフターコロナで従前に戻すというよりも、このピンチをチャンスとして、本来の学校教育で第一にしなければならないものに精選をしていく、そしてまた一つ一つの運営の仕方も考えていくチャンスを、コロナ禍で不謹慎な言い方ですが、いただいているのかと思っております。仰る通りだと思います。

**(野口委員)**

今朝の新聞で、大阪府では緊急事態宣言が出たらリモート授業を午前に行い、給食の時には登校させてという記事が出ていて、私の子どもはパソコンを持ってきて、果たして家で使えるのだろうかという保護者の不安が載っていました。実際、私の娘夫婦と話をしていても、「今度1人に1台パソコンが入るんだってすごいよね、でも群馬で多く流行ってきて今リモートと言われたらうちの子は使えるのかな」と、せっかく多額の費用をかけて整備したものですから、そのうち使えるようになる、ではなく、なるべく早く学校現場で活用していただき子ども達が少しでも使いこなせて、もし、そのような状況になってしまった時に、家に持ち帰り使える、あるいは持ち帰らせるかどうかの線引きはよく分かりませんが、そのような面でせっかく全国でも話題になっていることですし、持たせたものだから有効に使っていただきたいと思えます。

子どもから話を聞いても使ったという話をあまり聞かないものですから、まだ新年度始まったばかりなので仕方がないですが、これから段々、今日使ったよという話が聞こえてくるのかと思えますが、有効に使って授業の助けになると良いと思っています。

**(教育長)**

タブレットを配付していただき、そして、またこの後、秋以降に電子黒板の配備も始まる場所ですが、まずは先生方に、学校のいろいろなところで使っていただき、それこそ日常使いに慣れていただき、そしてその中で並行しながら子ども達にも学校の中で、まず校内でお互いリモートで会議を行うなど、そのような体験を積み重ねながら、仰るとおり、いざリモートで何かをせざるを得なくなった時には、できるようにと考えております。

タブレットが配られたのだからすぐ何かできるだろうと思われがちですが、決して教職員の能力云々の問題ではなくて、これは誰であっても機器を配られてすぐ使います、しかもリモートというのは、日頃の授業の水準があつてそこにリモートを加えるという、その難しさというのもございますので、学校を庇うわけではないですが、昨年の冬に配っていただいてから、学校は日々研修、研鑽、日常使いに取り組んでいるところですから、そこを市民の皆様にもう少し待ってくださいという言い方はできませんが、おかげさまでなんとか一生懸命取組ませていただきますということはお伝えしたいと思っております。

**(市長)**

なかなか機器も予定通り入らない状況でもありますし、製造が間に合わないというところもありますから、やはり3年、4年かけて行うものを1年で

とにかく前倒しでやるということで、ハード的なところは行っているわけですが、やはりしっかりとした使い方をしてもらわないとこれもまた困る話ですので、今の状況というのを、先ほどの高山委員の話でもありましたが、市民の皆様理解していただくような広報の仕方も考えないといけないと思っております。

**(教育長)**

ある程度先導的に取り組んでいる学校が何校かありますから、そのようなところの取り組み、先生達が一生懸命研修している姿は広報などでお伝えできればと思っております。

**7 その他**

特になし。

**8 閉会 [企画部長]**

長時間に渡りまして、ご協議ありがとうございました。総合教育会議につきましては、平成27年からスタートしておりまして、市と教育委員会との意見交換を通じまして、情報の共有や共通認識を図る場として行っております。

昨年度につきましては、コロナ禍ということで書面開催であったため、本日このように対面の会議が開催できましたことに、安心をしております。

次回の開催日程につきましては未定でございますが、協議案件が生じた場合には適宜開催させていただきたいと考えております。その際には、改めましてご連絡をさせていただきますので、ご出席のほどよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和3年度第1回伊勢崎市総合教育会議を閉会します。